



自然エネルギー財団

RENEWABLE ENERGY INSTITUTE

千葉県の気候変動対策の現状

千葉県民集まれ会議 Vol.2

～2050年カーボンニュートラルまでの道のりを一緒に描こう～

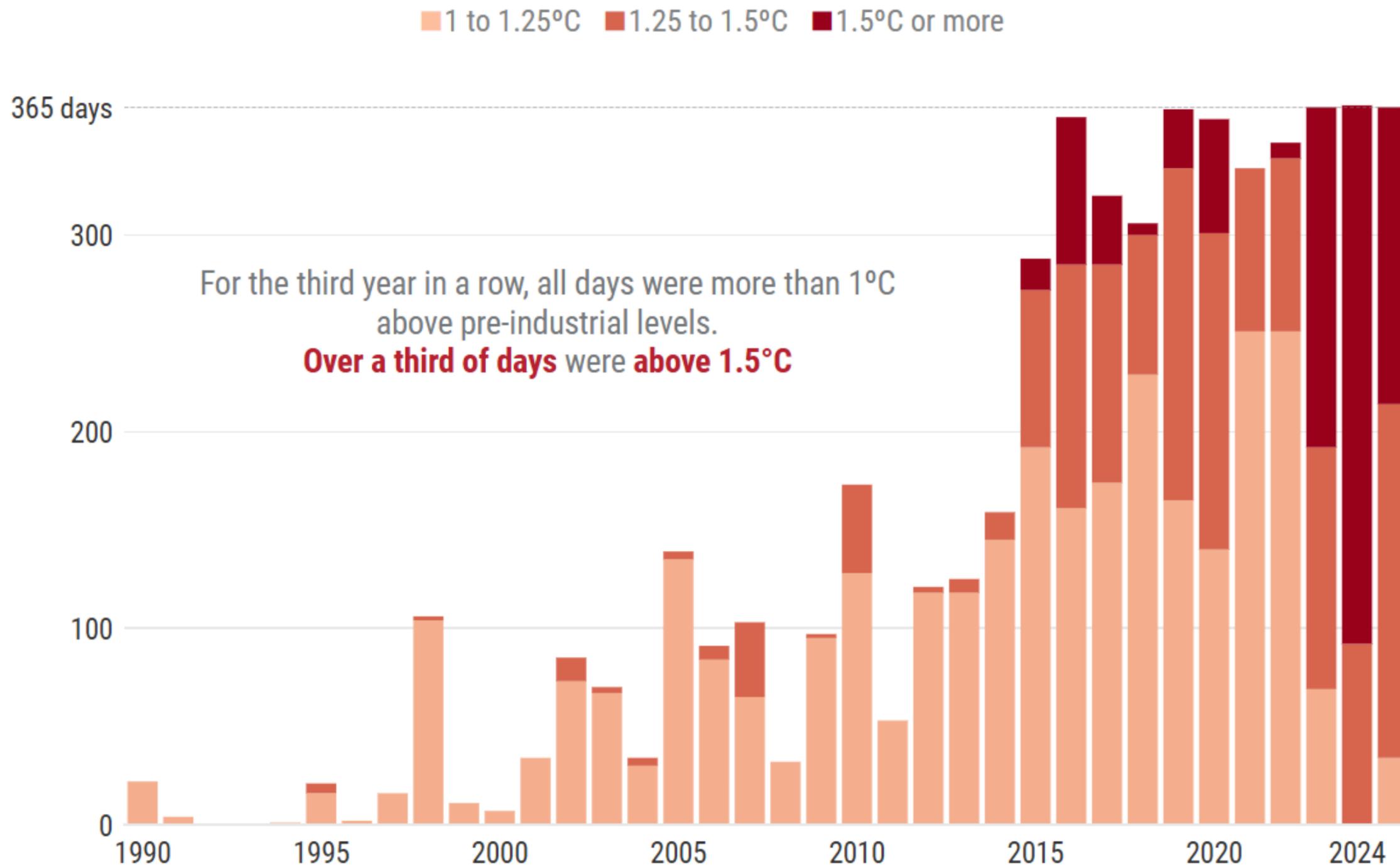
公益財団法人自然エネルギー財団
尾身悠一郎(上級研究員)

※本発表は個人の見解による。

2025年に1.5°Cを上回ったのは151日

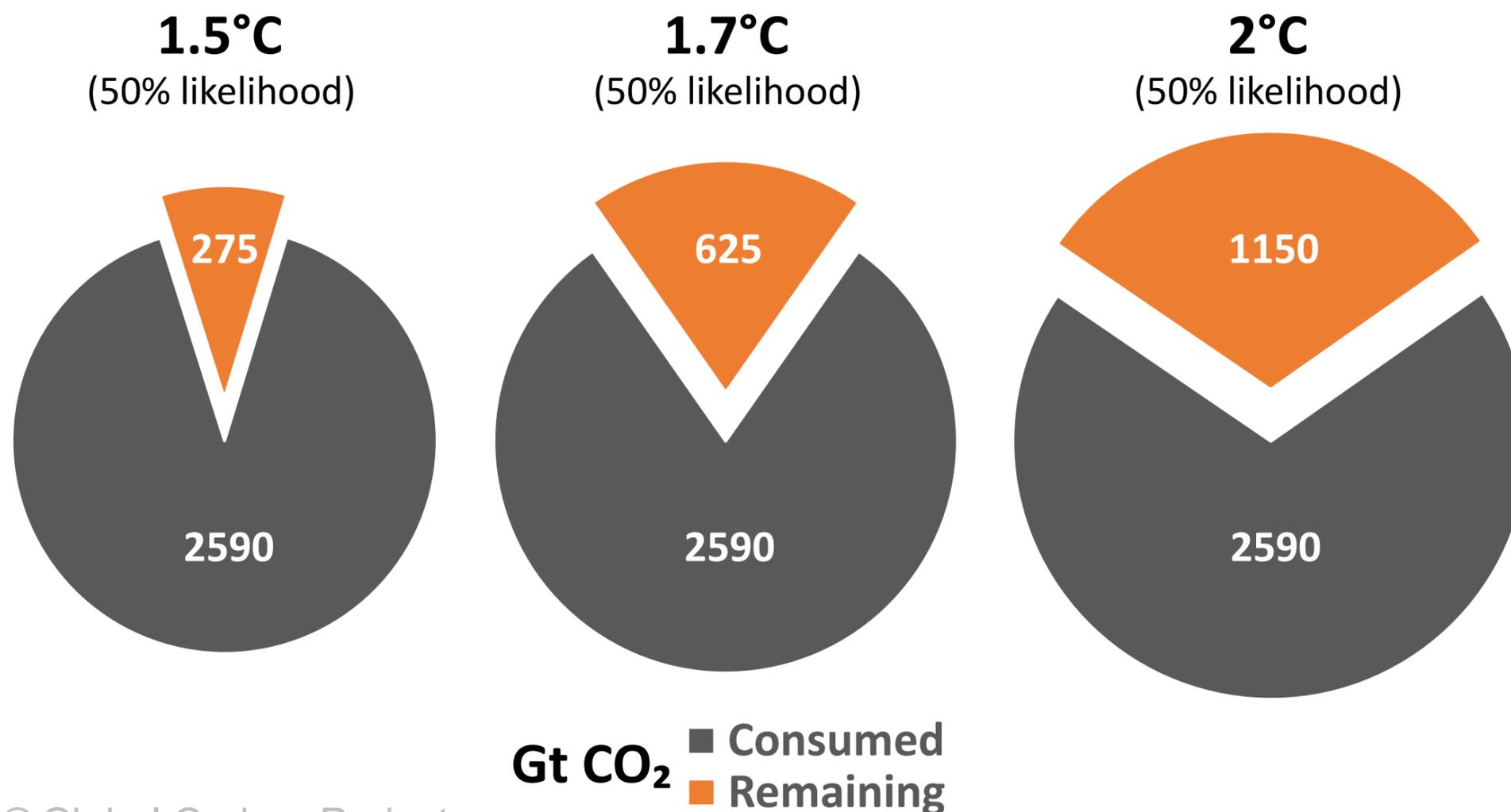


■ 19世紀(1850-1900年)よりも高い平均気温が観測された日数



1.5°C目標に残された炭素予算はわずか

■ 1.5°C～2°C目標に残された炭素予算（ギガトン）



© Global Carbon Project

大気中に排出されるCO₂の濃度と世界全体の平均気温には相関関係がある。つまり1.5°Cの気温上昇に到達しないために排出可能なCO₂の量には上限がある。
（＝炭素予算：Carbon Budget）

現在の400億トン（40ギガトン）を超えるCO₂排出が続いた場合、あと6年で1.5°C、15年で2°Cを超える。
（2°C目標の目安は1.7～1.8°Cを超えないこと）

炭素予算は排出量の推計方法がさらに精緻化されたことで、実際には2028年で1.5°C（残り3年）を超えるという研究者グループも現れている。

日本の削減目標は1.5度目標に不整合

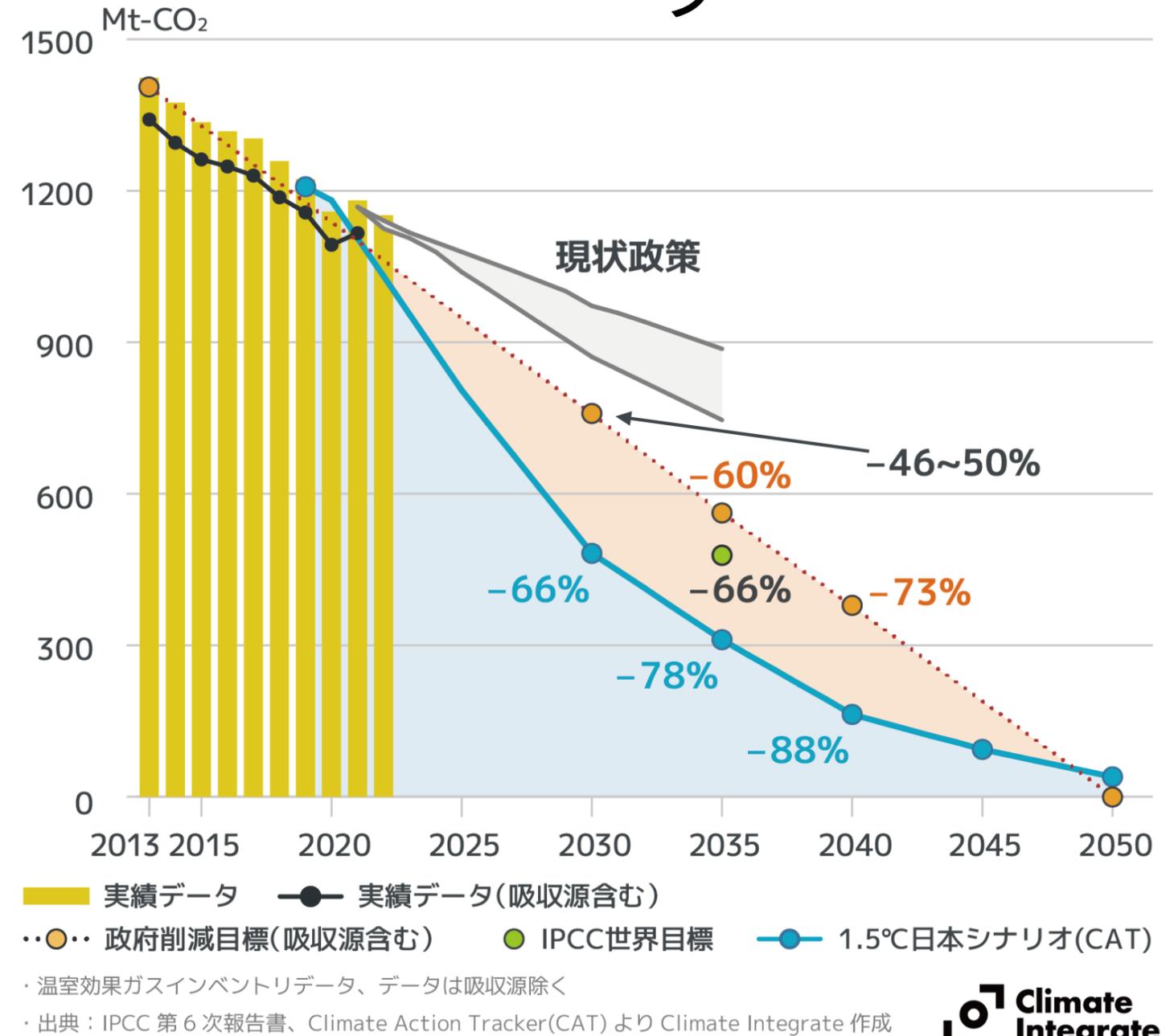
■日本のGHG削減目標

年度	削減目標(13年度比)
2013	基準年
2022	-
2030	- 46(～-50%)
2035	- 60%
2040	- 73%
2050	ネットゼロ

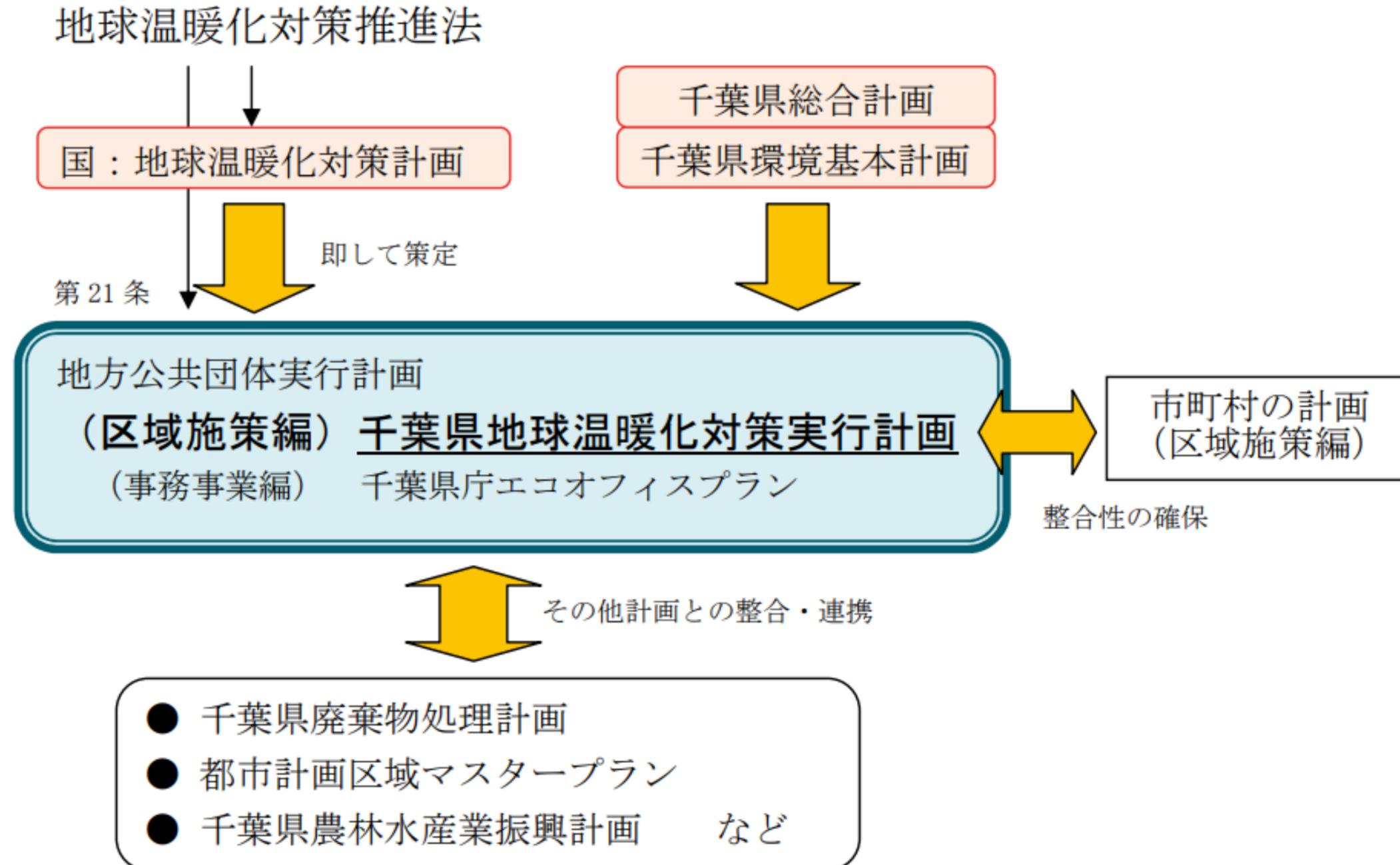
※2013年度（基準年）を除く値は、吸収量を含む

出典：「地球温暖化対策計画」、温室効果ガスインベントリデータより、Climate Integrate作成

■日本のCO排出経路と1.5°C目標とのギャップ



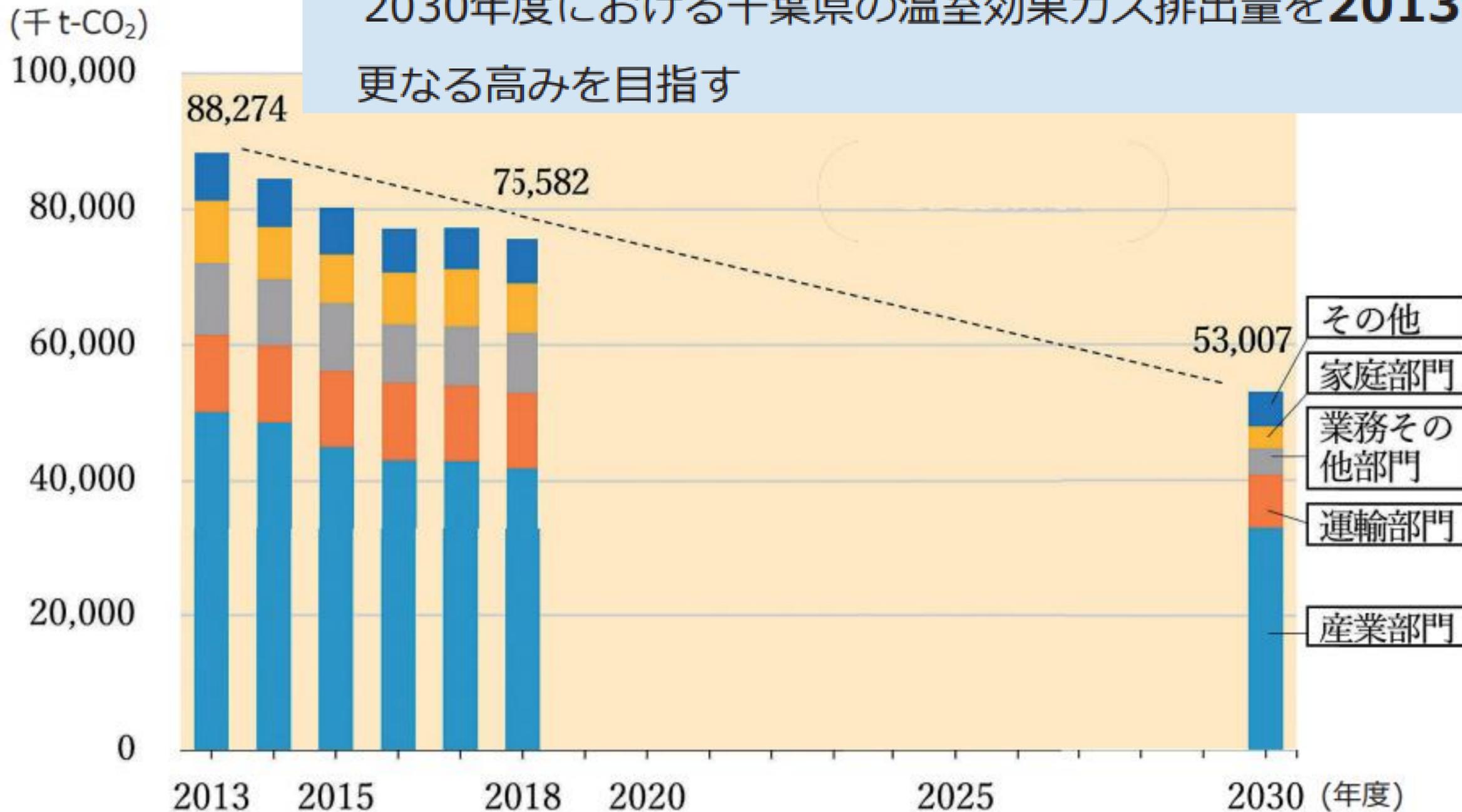
■千葉県温暖化対策実行計画の位置づけ



千葉県は国よりも更に低い

■千葉県温暖化対策実行計画の目標

2030年度における千葉県の温室効果ガス排出量を**2013年度比40%削減**とし、
更なる高みを目指す



千葉県 地球温暖化対策 実行計画



令和5年3月
千葉県

2030

「千葉の未来へのアクションプラン」

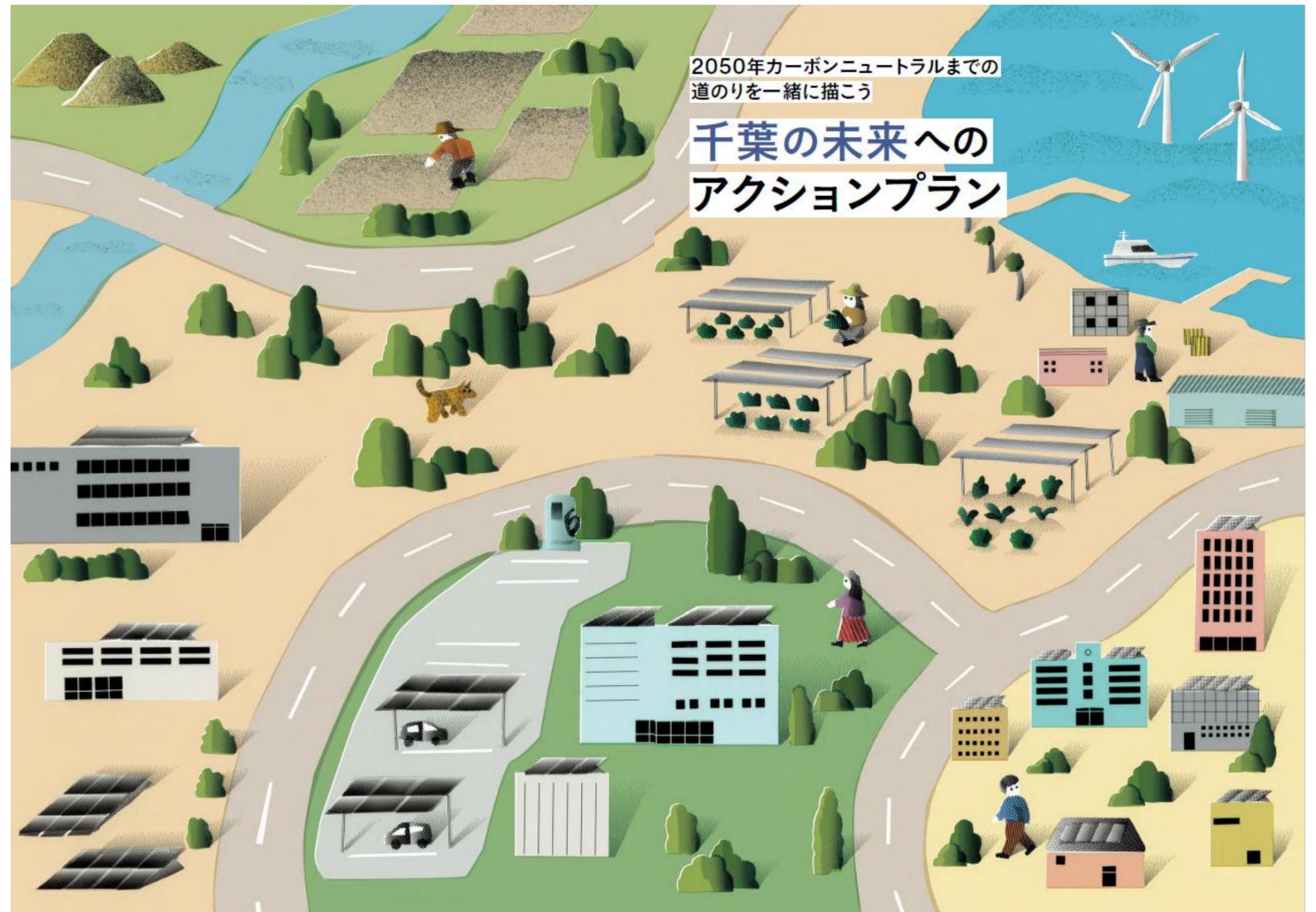


自然エネルギー財団
RENEWABLE ENERGY INSTITUTE

・千葉県は「産業県」として沿岸部の産業部門からの排出量が多いが、一方で住宅部門や業務部門の排出も多く、自分たちの住んでいる家、働いているオフィス、通っている学校の対策も重要

・太陽光発電や風力発電を導入できるだけのポテンシャルは全国でも有数だが、データセンターの建設によって電力需要も急増している

→「県の対策の現状は？県の脱炭素化は本当に実現できる？県・事業者・県民は何をすればいいの？」という疑問にお答えするために冊子を作成

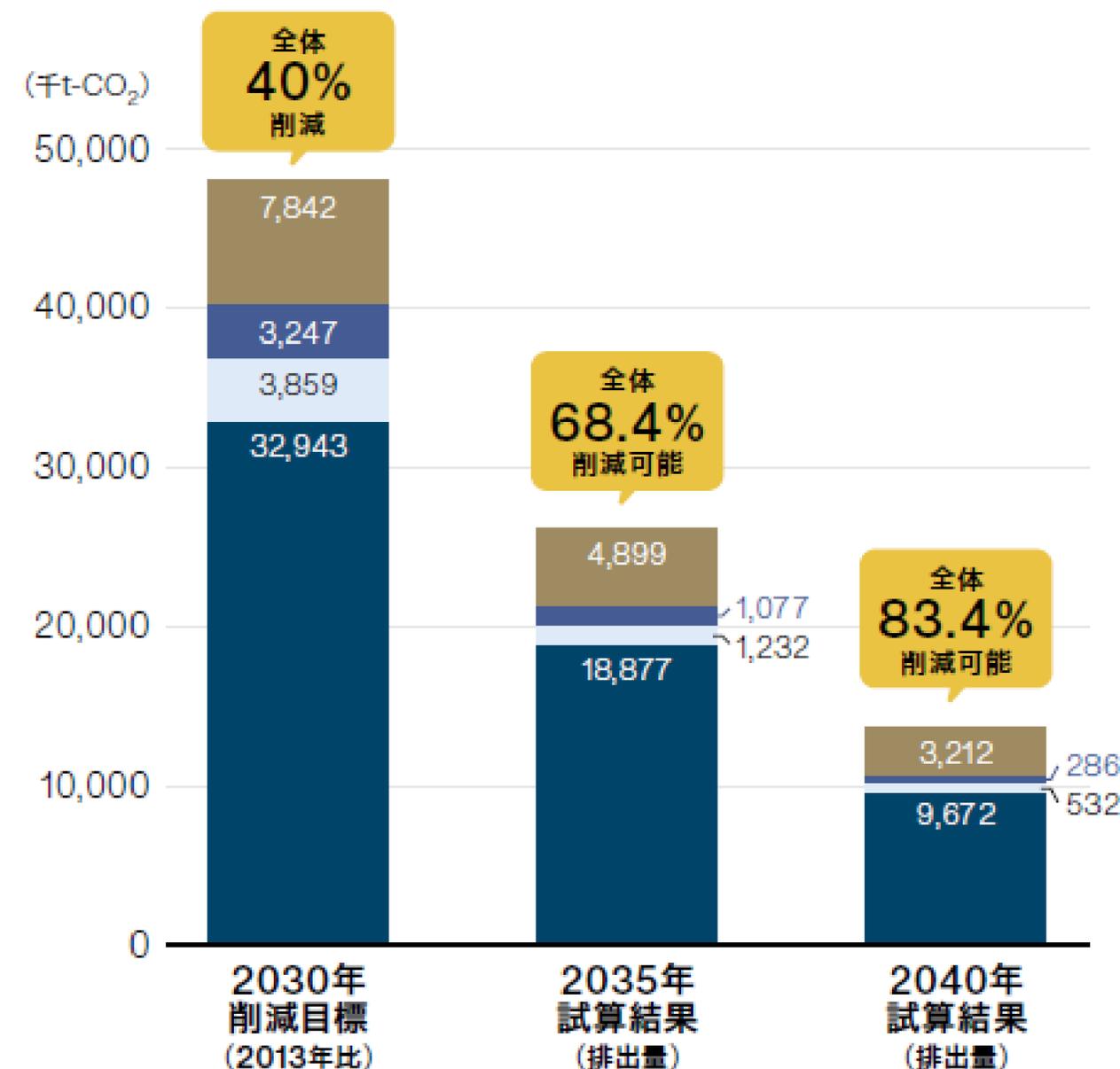


2040年にGHG排出8割減はできる

■ 2022年度までの削減率と 2030年削減目標

	2022年度までの削減率 (2013年比)	県の2030年削減目標 (2013年比)
家庭部門	15.1%	64.6%
業務部門	18%	63.4%
運輸部門	13%程度*	31.5%
産業部門	27.36%	34.2%
全体	28.6%	40%

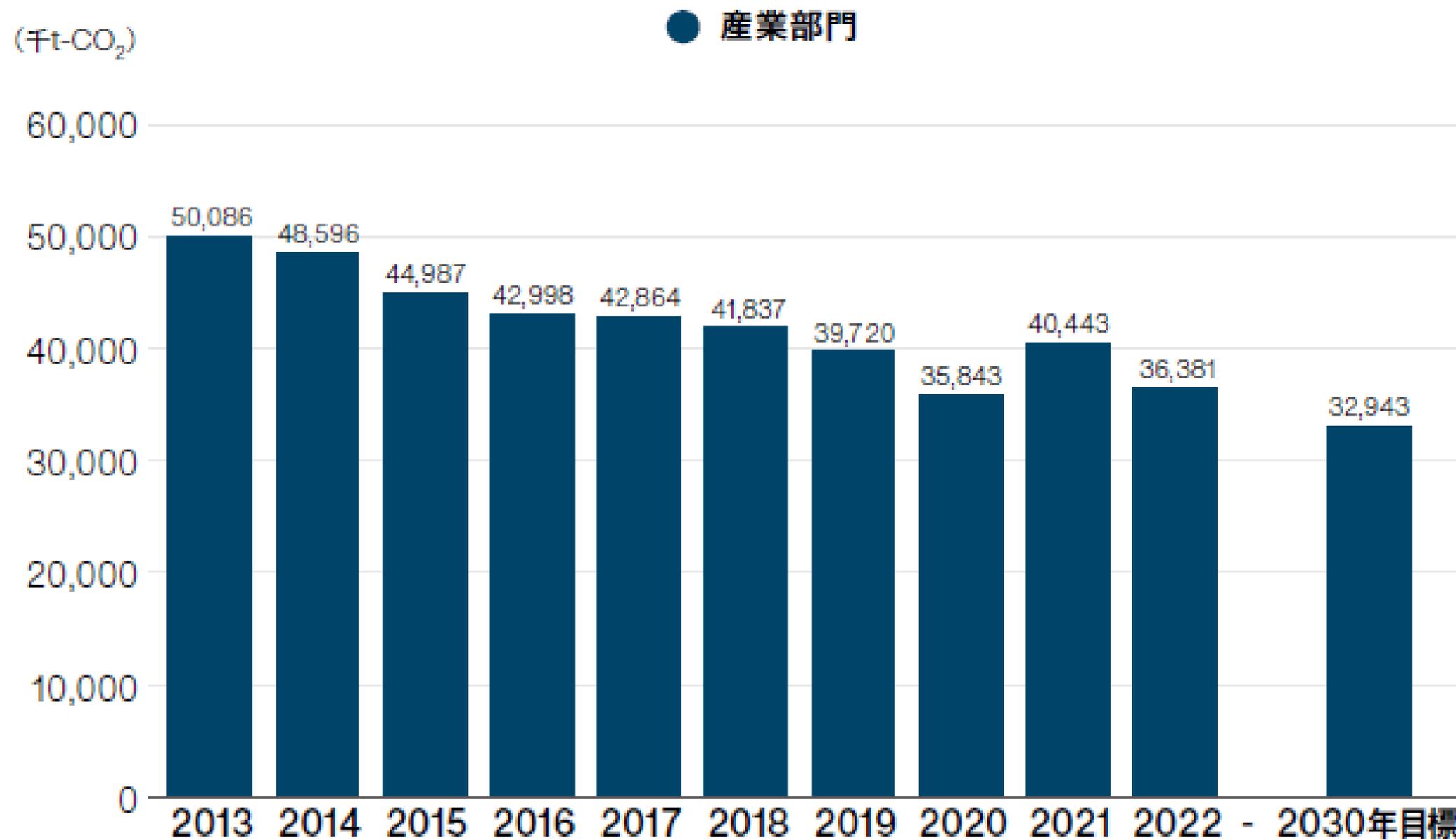
■ 千葉県の2040年までに実現可能なGHG排出量の削減率



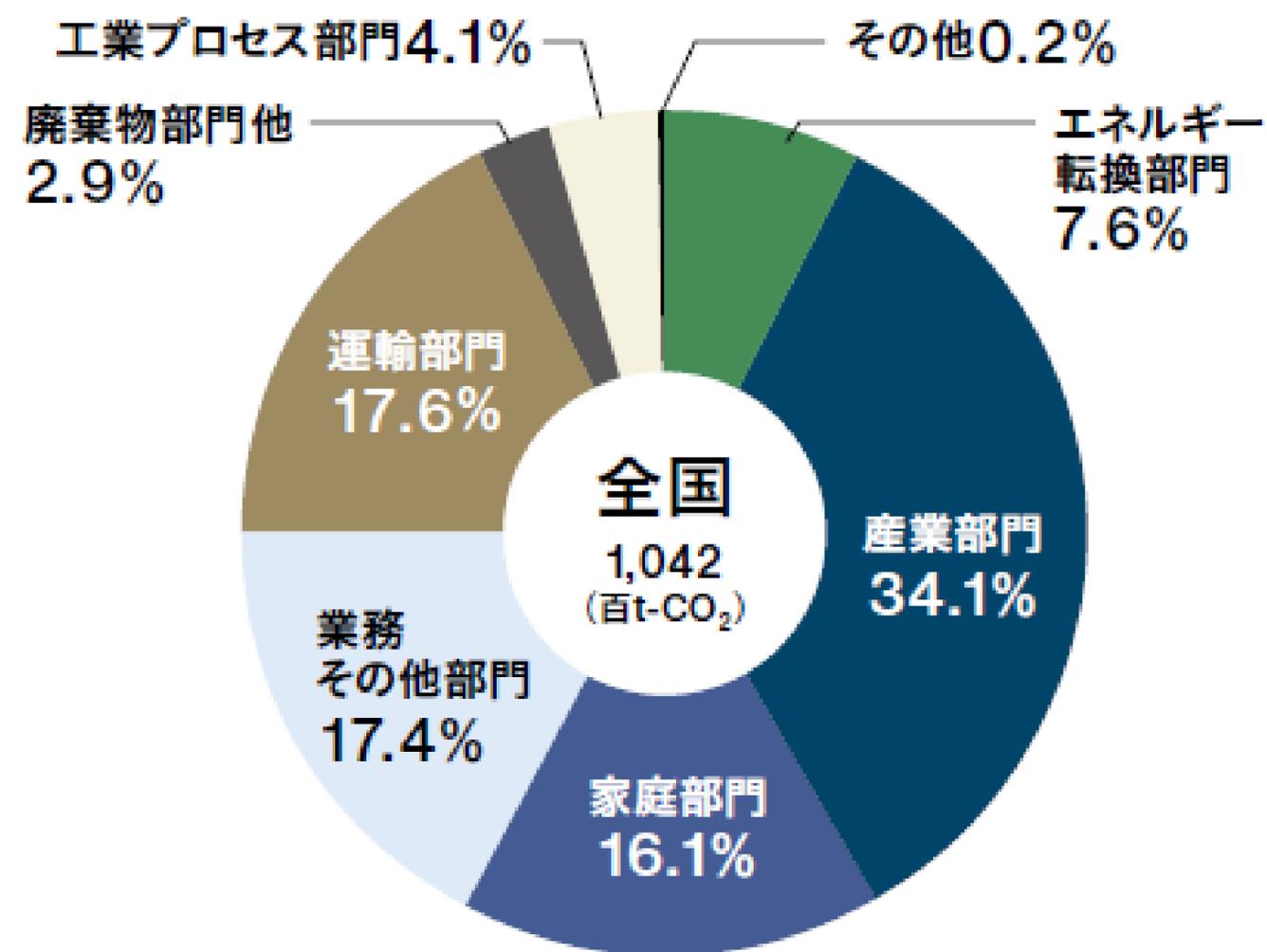
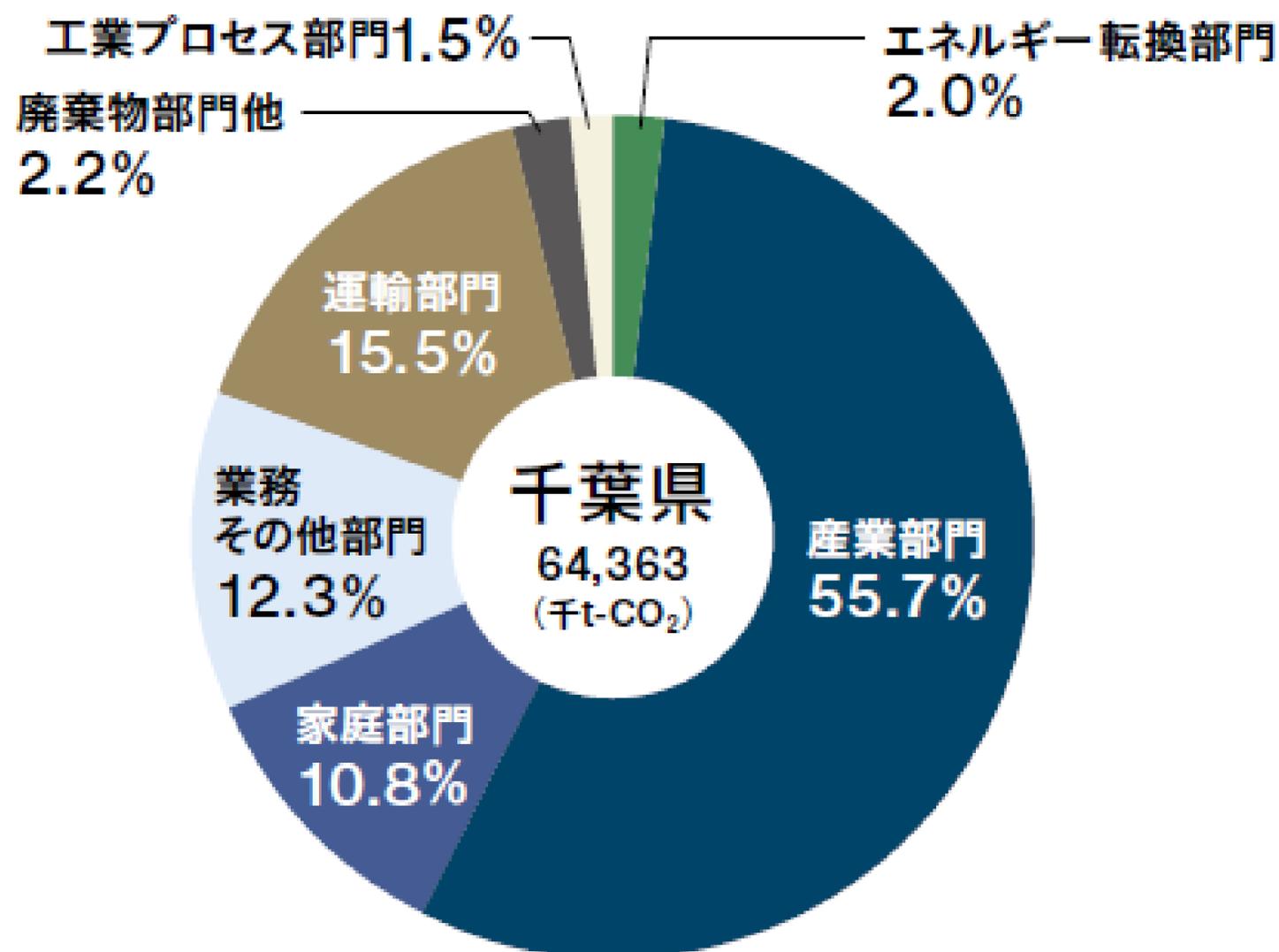
出典：産業技術総合研究所の歌川学氏による試算結果(右)：環境省「千葉県排出カルテ」と千葉県の排出量に関する実績データをもとに作成(左)。

* 運輸部門は千葉県が独自に年間CO₂排出量を推計しており環境省の排出カルテの数値と異なっているため、県の最新実績値である2020年の数値を記載している。

■ 千葉県の産業部門のCO2排出量の推移(2013年から2022年)と2030年目標



■千葉県と全国の二酸化炭素排出量の部門別構成比

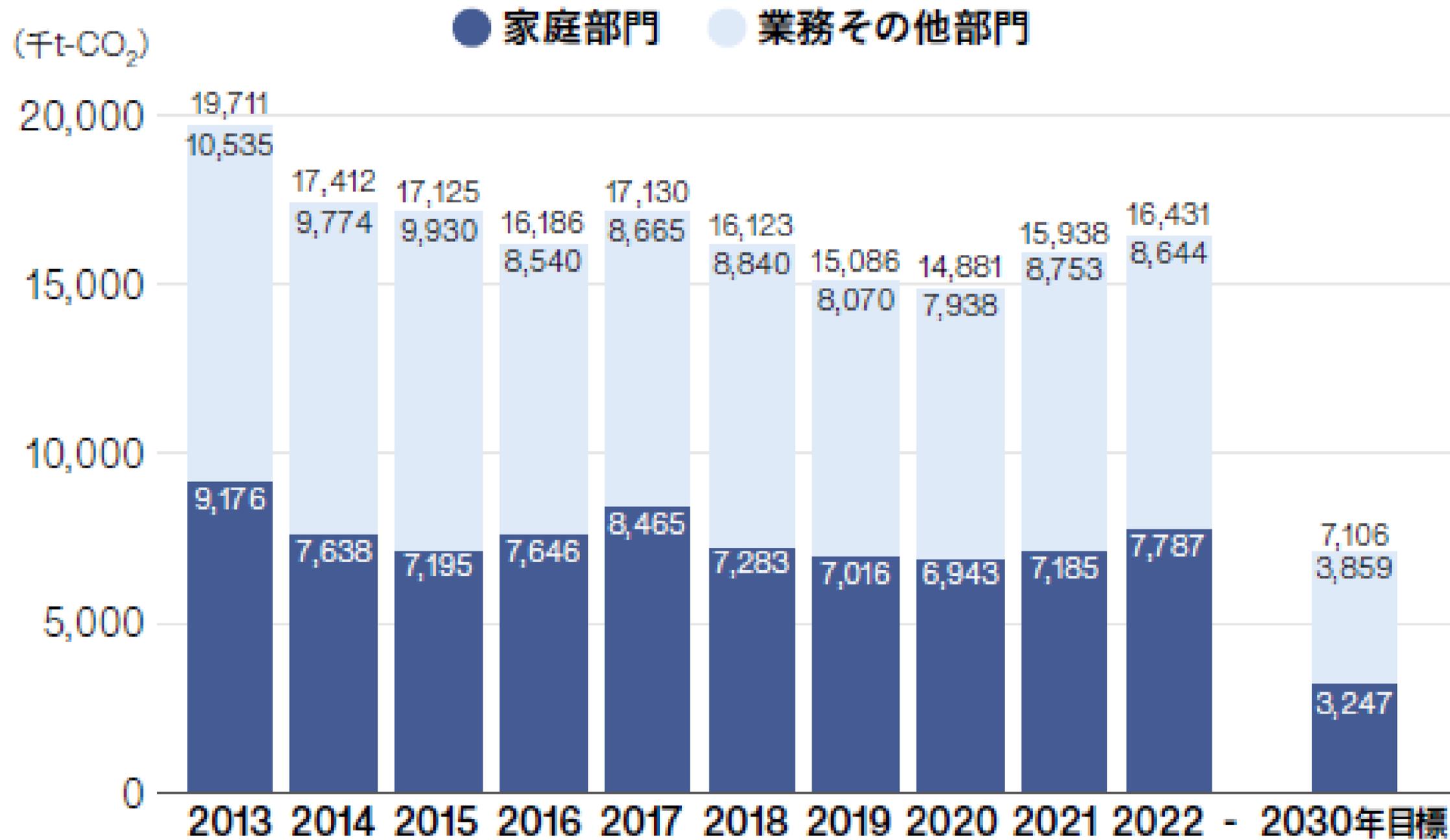


■一都七県の産業・家庭・業務部門の年間排出量(2022年度) (単位：1,000t-CO₂)

都道府県	産業部門	家庭部門	業務その他部門
千葉県	36,381 (1位/一都七県中)	7,787 (4位/一都七県中)	8,644 (3位/一都七県中)
東京都	4,893	17,526	29,923
埼玉県	7,287	8,752	7,979
神奈川県	22,946	11,315	11,954

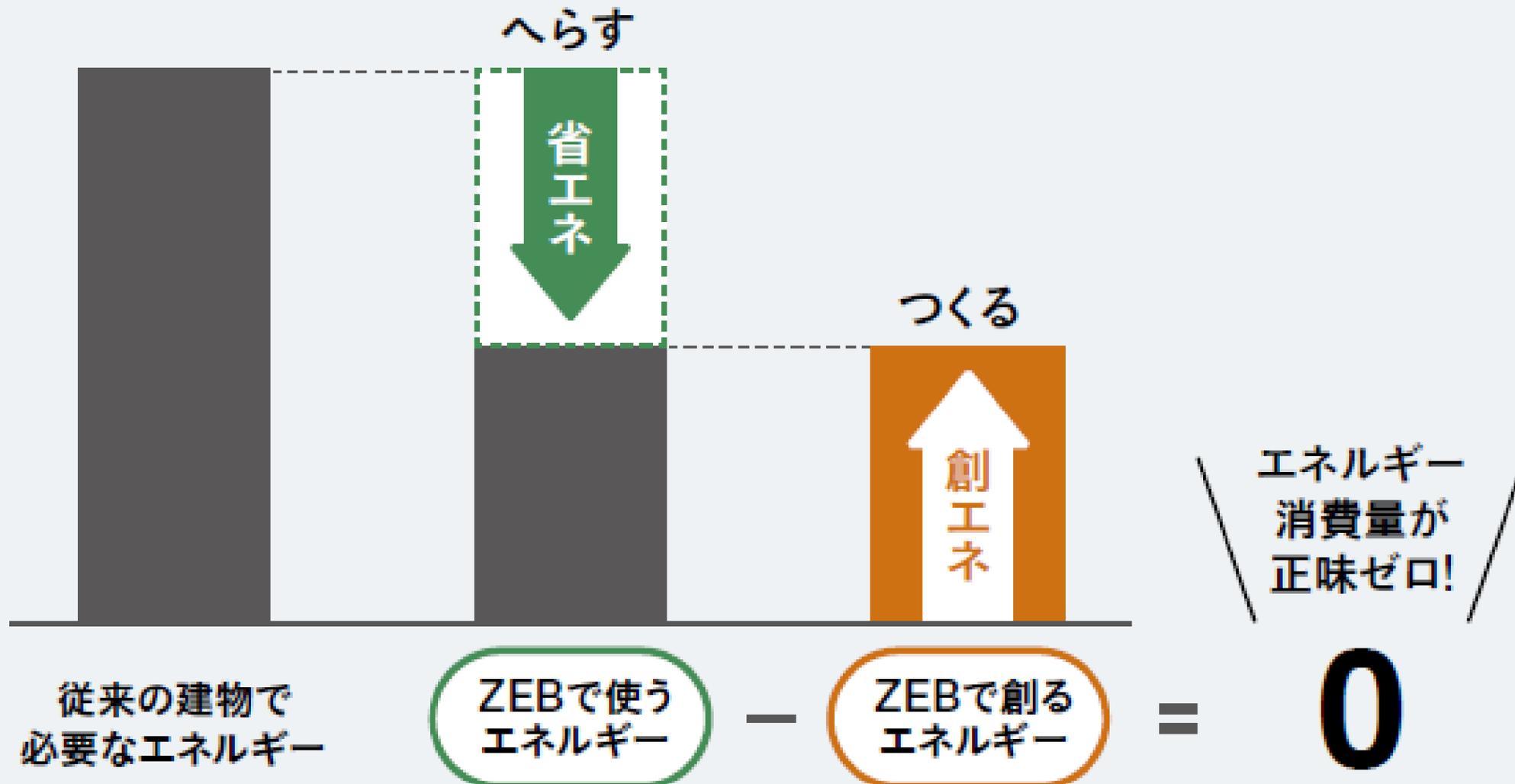
家庭・業務部門の対策を急ぐ必要がある

■家庭部門と業務部門のCO2排出量の推移(2013年～2022年)と2030年目標



■ ZEH・ZEBにおけるエネルギー収支ゼロのイメージ

『ZEH』とは^{ゼッチ}Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) の略称
『ZEB』とは^{ゼブ}Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称



■ 千葉県の新築戸建着工件数におけるZEH化率

県のZEH化率の目標 (2030年)	100%
県のZEH普及率 (2023年度)	20.7%

太陽光導入量は全国2位

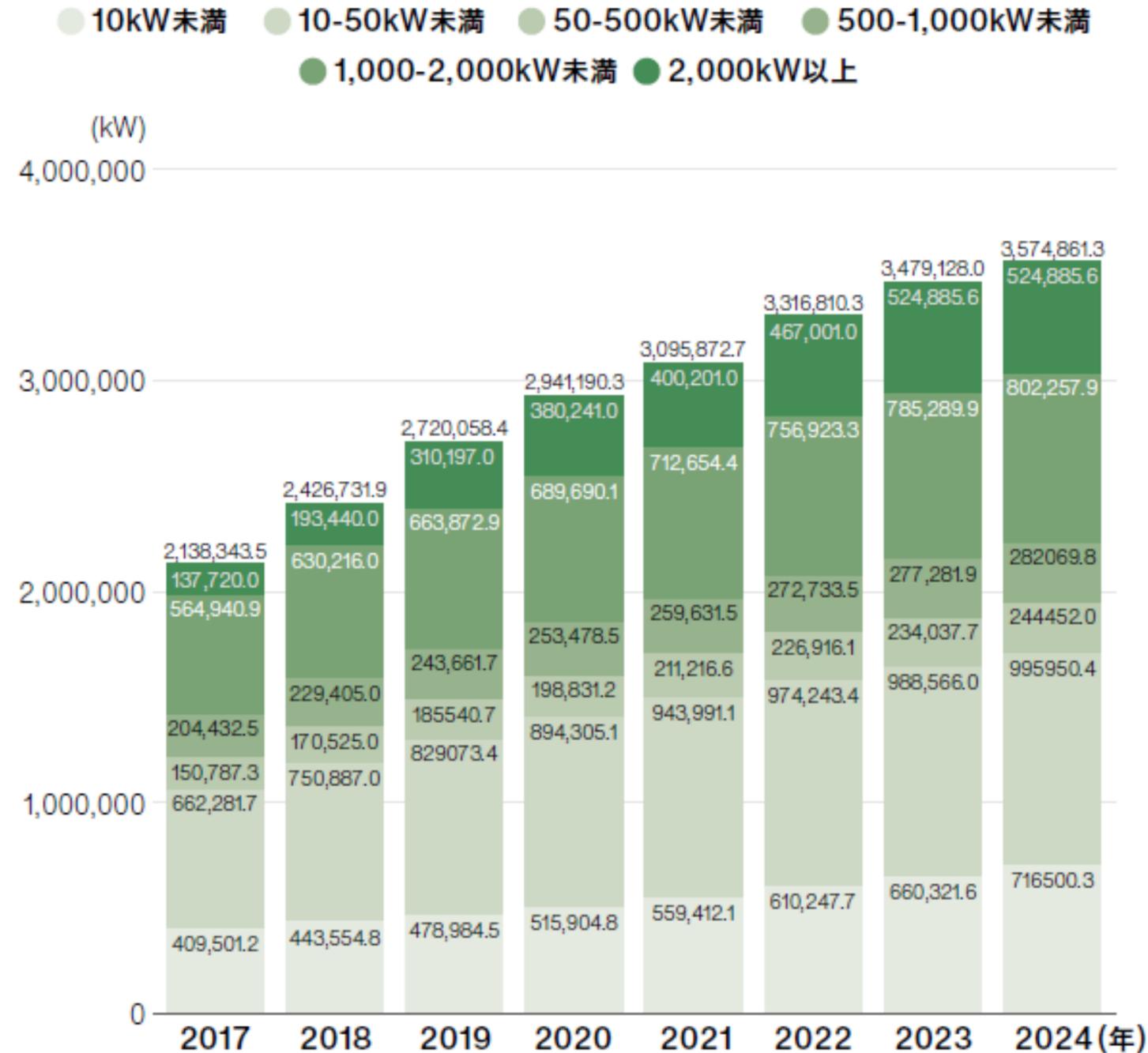


■都道府県別の再生可能エネルギーの導入量(2024年度末)

順位	再生可能エネルギーの発電出力 (MW)		太陽光発電の発電出力 (MW)	
1位	茨城県	5,069	茨城県	4,595
2位	北海道	4,475	千葉県	3,535
3位	愛知県	4,024	愛知県	3,258
4位	福島県	3,842	栃木県	3,214
5位	千葉県	3,806	兵庫県	3,153
	全国合計	90,215	全国合計	74,357

まずは2030年までに再エネ2倍が必要

■千葉県の太陽光導入量(2017~2024年)



■都道府県別の電力需要

順位	需要実績	
	都道府県	GWh
1位	東京都	76,334
2位	愛知県	58,034
3位	大阪府	54,224
4位	神奈川県	46,991
5位	埼玉県	38,083
6位	兵庫県	37,943
7位	千葉県	35,210
8位	福岡県	30,526
9位	北海道	28,491
10位	静岡県	28,439
	全国合計*	837,102

「ひろめていく」皆さんの力が必要



「おわりに」(p30)より

目標が野心的なのか、そして目標に向けた取り組みが順調なのかといったことを話し合う機会は、残念ながら多くはないでしょう。結果、気候変動に危機感を覚えつつも「何をしたらいいかわからない」と、解決策に踏み出すことができない……というこの現状こそが、大きな問題だと思っています。

本冊子によって「ここが課題なのか」「こんな解決策が実現すればいいのか」と筋道を知ることによって「なにをすればいいんだろう？」という漠然とした不安が解消されたなら、一緒に次のステップに進んでいきましょう。

